



株 辻雄貴空間研究所
華道家

辻雄貴

01



社会福祉法人 楽寿会
理事長

有馬良建

「尊厳を守る環境」を考えてみた

人は、森羅万象の力を求めている

辻初めて楽寿の園へお邪魔させていただきましたが、緑も花もたくさんあって素晴らしいですね。介護施設で、これだけ庭づくりに力を入れているのはどうしてですか？

有馬人は、森羅万象の力を求める本能をもっていると思います。木や花、太陽の光風、空の変化など、四季の移ろいの中で自然からの力を受感します。例えば、冬枯れの木立ちからの芽吹き、再生は復活のシンボルとして私たちに感動と勇気を与えてくれます。このように自然から人は癒や



います。先ほどケアハウスの前で職員の方が植栽やお花の手入れをしているのを拝見しました。植物は世話をされない、人間が気分によって愛でることを忘れてしまうと枯れてしまいます。それはきっと、人との接し方にも通じていることだと思います。施設の入所者や利用者への接し方と、庭づくりのやり方を一貫させているのだと感じました。

楽寿会の想いやメッセージを 体現する庭

有馬 我々は、常に介護サービスを通じて感動を与えたい、人生を豊かにしてもらいたいと考えています。庭が丁寧に手入れをされて、花がきれいに咲いていれば、ご家族やここを訪れる方々に入所者や利用者も大切にされているのだと感じ取っていただけないかと思っています。「私たちは高齢者の方々の尊厳を大切にしています、こういう姿勢で介護を行なっています」ということを宣言しているのがこの庭なのです。同時に、職員に対しても「入所者や利用者の尊厳を大切にしてください」というメッセージを発信しています。

辻昔、ドイツの幼稚園へ建築の

するーから 2020年8月号 掲載



辻雄貴 (つじ ゆうき)

富士市出身の華道家。建築を専攻していた大学院在学中にいけばなど出会う。「シャクジ能」といういけばなど能楽の世界観を融合した古くて新しい芸能のプロジェクトを旗揚げ。2013年にフランスで行われた能の公演では、静岡の放置竹林の竹を使って舞台を製作。2015年「シズオカ×カンヌ映画祭」ではアーティストディレクターに就任。2016年にはNYカーネギーホールで華道家として初の公演を成功させるなど、国内から世界へと表現の領域を広げている。

有馬良建 (ありま よしたけ)

社会福祉法人楽寿会会長兼理事長。静岡市議会議員、静岡県議会議員、静岡福祉大学社会福祉学部教授(社会福祉学)などを歴任。1996年、日本で初めて主催した介護技術大会が紹介されている「介護・看護職のための言葉づかいチェックリスト」のほか、「介護・看護職のための虐待防止チェックリスト」、「高齢者虐待と権利擁護」等、著書論文多数。厚生労働大臣表彰等を受賞。高齢者の尊厳を守る介護福祉の先駆的存在。日本の考古を中心に歴史を学び「温故知新」を大切にしている。

7月3日取材。施設内は厳重な感染症対策が徹底され取材できない状況であるため、お庭から楽寿の精神、を紐解きました。

され、感動し、心が動かされ、生きる力をもらっているのです。入所者や利用者の方々の生活の中で、こうした環境を整えることは大切だと思います。

辻 日本文化の精神が根底にあるのです。私は、野外を舞臺空間に、いけばなど能楽の世界観を融合した「シャクジ能」という芸能のプロジェクトを進めています。「シャクジ」とは、昔から日本各地で祀られてきた自然の精霊、神様のこと。そこからもわかるように、人間は植物をはじめとする自然から力をもらい、それに畏敬の念をもち、共生しているもの。自然と交信することで、生き方を正したり、生きる理念をつくることにつながっていくとも思います。

尊厳を

大切にするために

有馬 楽寿会の理念には、「尊厳を守る」を掲げていますが、この庭は理念を具象化する場所でもあります。ここから私たちの姿勢を感じ取っていただければと思います。また、楽寿会がそのような想いで介護に取り組んでいる姿勢を第三者に表す役目も、この庭は担っています。



勉強をしに行ったことがあったんですが、そこで働く先生には観葉植物を一つ自分で管理するという仕事が課せられていました。幼児に対しての接し方も変わってくるそうなんです。そのことを、今の話を伺って思い出しました。植物を世話することで、職員の方にもきっと様々な気づきがありそうですね。

有馬 楽寿会のマークも花になっています。一「楽」の文字を花になぞらえ、花のように心なごむこと、優しさこそが楽寿会の第一目的であるという願いを象徴しています。この庭は常により良くしようと考えて手を加え続けていますが、その点は介護においても同じ。より良い介護サービスを提供するため、専門的な技術も環境も、常に向上させるよう取



制服に輝く楽寿のマーク

花と緑にあふれ、豊かさが感じられる。



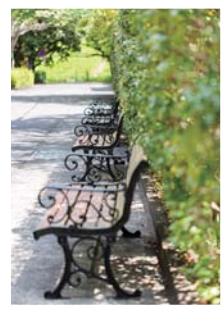
花と緑の楽寿の園

～ 高齢者総合福祉エリア ～

太陽光集光システム

8階に設置された集光システムで太陽の光を集め、1階の観葉植物まで届けます。

花や緑などの自然と文化を感じられます。



静岡県産の花をたくさん植えています。



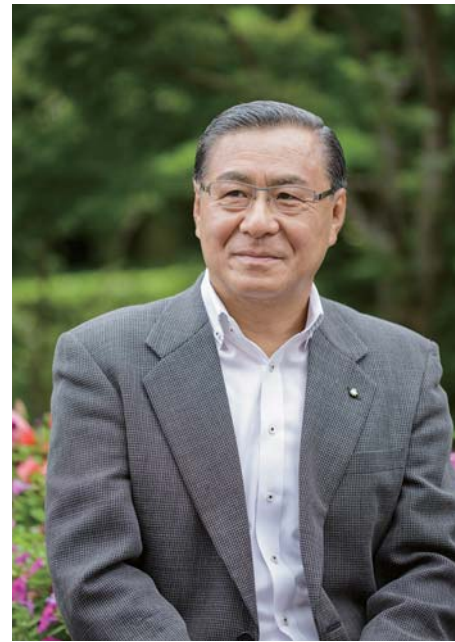
木立の道

散策するにも心地良い木立の道もあります。



社会福祉法人 楽寿会
(楽寿の園 高齢者総合福祉エリア)

静岡市葵区与左衛門新田74-6
営/8:30~17:30(問合せ時間) 駐/200台
Tel./054-296-1111(代) http://www.rakujū.or.jp



り組んでいます。つまり、この庭は様々な想いやメッセージを伝える媒介なのです。
辻 その媒介するものが、緑や花であるということが素晴らしいですね。僕は、いけばなとは習うものではないという考えを持っていました。というのも、例えば、おばあちゃんが誰かが家に来る時に、その人を喜ばせようと思って庭から摘んできて生ける花が一番美しいと思うからです。昔はそれと当たり前のようになっていたけれど、現代はそうではなくなくなってしまっています。逆に、ここにはないと感じます。逆に、ここにはそれがあるということが本当に素敵です。
有馬 我々も、庭から摘んだ花を施設内に生けたり、桜の花びらやもみじを、提供する食事に添

えることもあります。食事というものは生きる上でとても重要なところに四季の移ろい、自然のつながりを感じさせるものがあることで、さらに精神的にも身体的にも癒やされたり、充足感につながるかと考えています。
辻 庭の景色を食卓にも表現するということですね。いけばなの考え方も通じていて、とても共感します。食事に植物を添えるようになったのは、殺菌効果というか、植物の力で悪いものを払うと信じている日本人が古くから行ってきた大事な行為です。
有馬 昔から日本人は、自然を神としてあがめて大切にしてきましたからね。今に生きる我々もその系譜を受け継いでいるものだから、自然と接することで鬱々とした心のよとみとも言え



るようなものを拭拭する、生きる力をもたらしているということは必ずあると思います。

生きる力を引き出す自立支援の目標として

有馬 介護も、もちろん高度な技術を提供するわけですが、それ以前に想いを示すことが大切だと思えます。想いを大切にすることで、結果として豊かさを提供することができ、それが尊厳を大切にすることに通じますから。入所者の生活の中で、こうした環境を整えることが大切です。高齢者介護の重要な視座に「自立支援」がありますが、入所者の内なる力を引き出すためにも、この庭は重要な位置づけになっています。居室からこの庭ま

で自立支援の導線として描かれており、寝たきりの方などにとっては、この場所まで行くことが目標になります。自立支援の具体的な到達点となるのです。そして、到達した時には感動や喜びが生まれます。実際に、寝たきりから自分の足でこの庭を歩けるようになった方がいますよ。確かに、庭の存在が内なる生きる力や意欲を引き出していると言えます。また、「お庭を見に行けるように頑張らましようね」と職員と利用者の中にコミュニケーションも生まれます。ご家族が訪れた際の憩いの場にもなります。そういうわけで、この庭を「コミュニティガーデン」と名付けているのです。それから、ここには地域のの方々も訪れます。地域や世帯間の交流を生み、地域社会との接点点になっているのです。
辻 そのような風に環境がつけられているからこそ、この場所はとても開放的で、どこか自然に還っていくような感覚を味わえる気がします。都市で介護施設をつくる際にも、最近では自然を取り入れるようになってきましたが、それはやはり借り物。ここは、元からそういう環境がある場所だということが幸せなことだと思います。以前、能楽師の先生から、フランスで公演する際の能舞台



を「竹でつくりたい」と依頼されたことがありました。静岡に放置竹林の問題があることを知り、竹を自分たちで伐採してフランスに送ったのですが、その時の竹は、ここから程近い足久保地区のものでした。都市と奥山の間の里山であるこの地域は、人間が自然の一部だということを感じさせてくれる気がします。その中で、このような場所をつくっていくことはとても重要なことだと思います。

自然を背景に創造的に発展する「介護芸術」

有馬 楽寿の周辺を見ても、安倍川沿いの山々の緑とか、秋の紅葉があり、庭にも桜や様々な植

物があります。そして朝の陽光、夕焼け空の景色もとても豊かな気持ちにさせてくれます。それらの背景も含めて、利用者・入所者・ご家族の方など、ここを訪れる人には楽しんでほしい、感動を味わってほしいです。私は、そういう部分まで満たして初めて、福祉というものが完成すると考えています。この庭が象徴するように介護サービスというのは様々な要素を満たしている、いわば、壮大なスケールのようなものなのかもしれません。私は、介護や福祉も創造的に発展させていく、芸術だという発想を持っていて、その点からもこの庭はなくてはならないものです。「介護芸術」という考え方で、これからも高齢者福祉の発展につなげていきたいと思います。